

第39回郡山市子ども・子育て会議 会議録

【日時】

令和3年4月28日（木）午後2時00分～午後3時30分

【場所】

郡山市こども総合支援センター3階 研修室

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和3年度「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目標設定等について
 - (2) (仮称)郡山市保育・幼児教育ビジョンに係るアンケート結果等について
 - (3) その他
 - ア 第56回こどもまつりについて
 - イ 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金（ひとり親世帯分）について
 - ウ 2021年4月1日認可保育施設待機児童ゼロ並びに入所児童等の確定について
- 4 その他
- 5 閉会

【出席委員】

14名（敬称略）

滝田 良子、平栗 裕治、吾妻 利雄、大川原 順一、佐藤 広美、佐藤 真澄、三瓶 令子、遠野 馨、蛭田 さゆり、福内 浩明、安田 洋子、山田 祐陽、吉田 みね、佐藤 勉

【欠席委員】

5名（敬称略）

佐藤 一夫、隅越 誠、濱津 真紀子、箭内 孝仁、加藤 晴美

【事務局職員】

13名

こども部 : 国分 義之（部長）、相楽 靖久（次長）、三津間 義郎（次長）
こども政策課 : 伊藤 恵美（課長）、榮 一寿（課長補佐）、
鵜川 哲郎（主任主査兼こども企画係長）
こども家庭支援課 : 伊藤 克也（課長）、佐藤 香（課長補佐）、
橋本 正寿（主任主査兼給付係長）、関 隆之（こども家庭相談センター所長）
保育課 : 杉内 泰史（課長）、早川 利郎（課長補佐）、
山田 麻紀（保育所管理係長）

【配布資料】

- 資料1 令和3年度「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目標設定について
- 資料2-1 ～施設アンケート等結果速報値の報告及び統計データや速報値から見える課題～
- 資料2-2 施設アンケート結果 速報値
- 資料2-3 保育者アンケート調査結果 速報値
- 資料2-4 保護者アンケート結果 速報値
- 資料2-5 郡山市 統計データについて
- 資料2-6 (仮称)郡山市保育・幼児教育ビジョン策定スケジュール
- 当日配布資料 第56回こどもまつりパンフレット
- 当日配布資料イ 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯分)について
- 当日配布資料ウ 2021年4月1日認可保育施設待機児童ゼロ並びに入所児童等の確定について

1 開会

(鶴川係長)

定刻となったので、ただいまより「第39回郡山市子ども・子育て会議」を開催する。

【傍聴希望者が3名おり、郡山市附属機関等の会議の公開に関する要領の規定により会長が許可することとなっていることから、滝田会長にお諮りし許可を得る】

<傍聴者が入室する。>

2 会長あいさつ

【滝田良子会長から以下のとおり挨拶がある。】

朝の風景を見ると保育園、幼稚園に行っていた子どもたちが嬉しそうにランドセルを背負って登校する姿を見ると涙が出るほどうれしい。でも、これが時々お休みになったりコロナのせいで自由を阻害される活動もあり、一日でも早くコロナの状況から脱却したいものだなと思う。そういう中で、委員の皆様にはご出席いただきありがとうございます。

3 議事

【議事の前に、事務局：鶴川係長から本日使用する資料の確認がある】

(鶴川係長)

それでは「議事」に移るが、以降の会議の進行については、滝田会長に議長をお願いする。

(滝田議長)

それでは、議長を務めさせていただきます。

- (1) 議題1 令和3年度「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目標設定等について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局：伊藤政策課長から、資料1に沿って説明がある。】

(滝田会長)

ありがとうございました。令和2年度の報告ということで前回の会議でも報告があったように、福島県、特に郡山市の子どもたちの体力が全国比で落ちているのではないかという問題が出されており、ここでも見直しということでこのような計画や目標数値を立てられたということだが、資料をご覧になってご意見・ご質問はあるか。

(山田委員)

ケアプロジェクトの目標の中に肥満予防という内容が入っていると思うが、それを反映するところでアンケート調査の中にも食生活という項目があると思うが、ずっとされている事業で、そもそもになってしまうが、食事の内容・食生活改善を進めるような事業が含まれていないというのは何か理由があるのか。

(事務局：伊藤政策課長)

食べる時間等の生活習慣については入っていたが、食生活の内容については入ってなかった。

今年度で8年目ということで継続性があり、今の段階で項目を追加することは難しい。ただこの事業とは離れたところでしっかり対応していかなければならない問題だと思う。

(山田委員)

せっかくアンケート調査をやっていただいているので、その欠陥を次の事業に活かしていただければと思う。

(滝田会長)

続いて、議題2（仮称）郡山市保育・幼児教育ビジョンに係るアンケート結果等について、事務局からお願いします。

【事務局：杉内保育課長から、資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6に沿って説明がある。】

(滝田会長)

ただいまご説明があったが、これに関してご意見・ご質問はあるか。

(佐藤真澄委員)

保育所アンケートで、公立保育所では209名の方にアンケートに答えて下さっているのに対して、幼稚園が14名しか答えていないのはなにか原因があるのか。

(事務局：杉内保育課長)

ご質問があったのは資料2-3のところであり、回答の内訳で公立保育所が全体の50%を占めるのに対して、その他の施設の回答の割合が低いのではないかと思います。こちらについては施設を通してアンケート調査をお願いして、それっきりだったことが反省すべき点だと思います。私どもとしては多くの方にご協力をいただきたいというところがあったので、各団体にもう一回お願い等々をしておけば思い出して、回答率が上がったのかなと思う。いかんせん、最初の段階でチラシ等を配り回覧してくださいをお願いしたが、その後の追加のお願いを怠ってしまったことが回収率が悪くなった背景かなと思う。公立保育所、民間保育所、幼稚園の割合が均等に出ている場合ならアンケート結果もより精度の高いものになっていたと思うが、こういった状態になってしまい申し訳ない。

(滝田会長)

確かにバランスに欠けるということはおっしゃっていた。その他質問はあるか。

(遠野委員)

先ほど説明いただいた中に「幼児教育の質の向上のための講演会や研修会を開催していかなければいけないと考えている」という答えだったと思うが、実際に今後研修会や講演会などの開催はあるか。

(事務局：杉内保育課長)

現在、既存の研修として認可保育所等については研修補助を行っている。具体的な内容については施設に委ねているところもあるので施設に聞いていただきたい。今後、ビジョンの策定においては研修も充実出来ればと思う。

(滝田会長)

(安田委員)

集計半ばではあるが、ある程度課題も見えてきたかなと思う。回答数が少ないのが残念な部分であるが、施設の課題・保育士の課題、それぞれに保育者の確保が切羽詰まった問題であるし、保育士側からすると仕事が大変だということでもう少し体制を見直すという点が保育士の視点から見えてくる。施設の方からは保育者の資質の向上というところが出ているが、保育士側からはもっと自分をもっとキャリアアップさせていきたいという気持ちが出てきている。

ただ、キャリアアップ研修の受講率が47.6%と半数以下であり、かなりキャリアアップに対しては手当を出しながら対応していると思うが、なかなか現場が忙しくて研修に出られない現状がある。そういうところに対して踏み込んだ対応策が必要になってくるのではないかと感じた。

3つ目として、障がいのある児童や特別な支援を要する児童の対応というところは施設側もそうだが、保育士ももっと自分たちが対応する力をつけていきたい強い希望があるように思う。また保護者の方からも特別な支援を必要とする児童が入所可能な施設が限られている、なかなか入れない状況についても話が出てきたと思う。実際に障がいのある子どもたちを受け入れている施設が63施設あり、その中で医療的ケア児を受け入れている施設が28施設あるということでこれは地道な現場の努力だと思う。ニーズも高いと思うので、医療と療育施設との連携、ネットワークを作っていくことの課題が見えてきたのではないかと思います。そういったところを郡山に住む子どもたちが障がいの有り無しではなく、障がいのある子どもが取りこぼされずに療育・教育が受けられる体制や仕組みを丁寧にやっていく必要があると感じた。

(事務局：杉内保育課長)

これまでは待機児童を解消するというところで定員を増やすなど量を増やすことに力を注いできた。4月1日現在で待機児童がゼロになったことを踏まえると、これからは量を求めてきた施策から質の高い保育を開くべき時に差し掛かっていると思う。委員さんからいただいた医療施設の認可枠といったところについてもどのように入ってくるかわからないが貴重な意見だと思い、ネットワークを作りながら質を高めていく保育士を育成していきたい。

(吉田委員)

私共は看護職の団体なので、女性が多いなど通じるところがあると思う。私たちが働き続けられるのは保育所があってこそなので、特に保育者アンケートのところは貴重な意見だったと思う。

3つ目のところの「やりがいをもって業務を行っている」というところがあり、本当に素晴らしいことだと思った。ただ、若干時々辞めたいと思う人がいるというのは女性なのでライフイベントがあって、仕事との両立が無理だなど思うところもあると思う。やはりそれでもやりがいを持って続けられるためにはそういった支援をしていく必要があると思う。やりがいというところでは、研修で自分のスキルを磨くのも当然だが、働き続けられる職場環境がすごく大事だと思う。制度的にも女性の働く環境は整えられてきたが、日々のなかでは細かいことがたくさんあり職場での「おたがいさま意識」と呼ぶが、自分や子供が具合が悪いときは休ませてもらい、誰かが具合が悪いときは「どうぞ休んで」という職場環境づくりがすごく大事だと思う。

働き続けられる職場づくりは大したことをやるのではなく、職場職場で職員の人たちがどうやったらお互い働き続けられるかという意識で働くと、保育士さんたちも足りないという話も聞くのでぜひ働き続けられる職場づくりをお願いしたい。

(事務局：杉内保育課長)

やりがいを持って携わっている方が非常に多いのに対して、辞めているのは非常にもったいないと思う。せっかくやりがいを持って仕事をされているのに、色々なことはあるのかもしれないが、保育士、幼稚園の先生が辞めざるを得ない環境にあるのは、これからの保育士の確保をする上では、働き続けられる環境をつくるのが大切だと思います。

(遠野委員)

最後に一点よく分からないところがあるのでお聞きしたい。

統計データからも人口減少が進み、未就学児童も減少していく中で、待機児童の解消とはいえ認可施設の増設を行った理由がどうしてなのかやっぱりわからない。

施設からのアンケートの中にも売り上げに支障が出ていると思うが、今後施設の方にもどのような対応をしていくお考えなのか。

(事務局：国分部長)

令和2年度に施設整備を行って令和3年4月に新たな施設が6施設オープンした。児童の減少に反して施設を増やした理由であるが、新規の児童の入所申し込みが児童数が減っているのに横ばい状態だったことがある。これは女性の就業率の向上も後ろにあると思う。また、3歳から幼稚園に預けるまではご自宅にいるということではなく、0歳・1歳から女性の方が働き始める時代になってきているということだと思う。

今回、八山田・日和田地区に6施設オープンさせたが、これは人口や子どもの数の分布を丁寧に拾い上げ、かつ地区別待機児童数を事前に調査をして、今後も施設が不足し続けるという見込みがあったのでオープンさせた。なお、施設の側から見れば定員割れという話になってしまうのかもしれないが、実際子どもを預ける立場から見れば4月に入る人ばかりではなく、5月・6月にも入りたいというニーズはずっと続く。保育所に入りやすい状況になってきており、そういったニーズにお応えできていくのかなと思う。

4月1日時点での待機児童ゼロは新聞等で発表した。5月1日現在では若干待機児童が発生する現状である。そうしたことから総合的に判断して新たな施設をオープンさせたのでご理解いただきたい。

(滝田会長)

ただいまアンケートの結果ということで、皆さんの前にお示しいただいたものと委員からのご意見などを踏まえながらビジョンを作成していただいで次回の会議にお示しいただければありがたい。

続きまして、3 その他 の項目が3つあるので事務局からお願いいたします。

【事務局：伊藤政策課長より第56回こどもまつりについて説明がある。】

【伊藤家庭支援課長、橋本家庭支援課主任主査兼給付係長より当日配布資料イについて説明がある。】

【杉内保育課長より当日配布資料ウについて説明がある。】

(滝田議長)

それでは、その他の3点について何かないか。

(遠野委員)

低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金について、ご存じであれば教えていただきたい。私たちも昨年から生活困窮になった方へのアンケート調査を行っているが、4月仕事を失くされて生活困窮に陥った方が少しずつ増えているよう状況だと感じている。こちらの窓口にも経済的に困窮している方からの相談件数は増えているのか。

(事務局：伊藤家庭支援課長)

本日は担当の係の者も来ているが、実態としてそういった相談が増えている感覚はない。

(国分部長)

ひとり親に限らず、生活困窮者全体については保健福祉部の方で生活困窮者自立支援法に基づく窓口を開設しており、保健福祉部が社会福祉協議会と連携をとっている。まずお困りになった場合に非常にニーズが高いのは緊急小口資金の貸し付けであり、返済が出来ないということであれば返済不要になることもある。

(吉田委員)

パンフレットについてご紹介させていただきたい。福島県看護協会では福島県の委託を受けて、看護の出前講座をしている。小学校、中学校、高校に出向いて児童生徒に命の大切さやキャリア形成といった話を授業の中でさせていただく。昨年からの委託となったので、学校の負担は無料で受けられる。昨年度は22校で行った。好評なのは助産師さんの「命の大切さ」で5月12日の新聞に感想が載せられる。こういった事業がご希望であれば申し込んでいただければと思う。

(滝田会長)

それでは、その他無いようなので議事が終了したものとして議長の職を解かせていただく。皆様ご協力ありがとうございました。

次回の開催は5月27日である。

4 その他

【佐藤勉委員より挨拶がある。】

5 閉会

(鵜川係長)

次回の会議は、令和3年5月27日（木曜日）午後2時に開催予定である。

また、今年度の開催予定は次第としてお配りした。例年より回数が多くなっているの
で委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

以上をもって、会議を終了する。

以上